

子育てコラムがリニューアル!

子育てと絵本 vol.1

幼い日に、身近な人の肌に触れ声に触れて、気持ちと時間と空間を共有した温かく楽しい絵本のひととき。その豊かな体験が時を経て親となり、子どもへとまた絵本を紡いでいるのでしょう。

子どもたちにとって絵本は、言葉を学び、感性を磨き、表現力や創造力を高め、豊かな人格形成をもたらすものとしてとても大事なものです。

独立行政法人国立青少年教育振興機構は、最初に子どもが出合う絵本の専門家として、絵本から読書活動に繋いでいく担い手として、2014年から「絵本専門士」の養成を行っています。

日本では1950年頃から絵本の普及が目覚ましく、数々のロングセラーが時代を超え世代を超えて読み継がれています。長く安定した絵本を求める土壤がある中でも、新しい表現方法や作風の新刊

心を癒やし育む絵本の世界

絵本が多く出版されています。2018年の児童書新刊の内、42%にあたる約2000冊が新刊絵本です。

「絵本が多すぎて何を読んであげたらいいかわからない」「一緒にたくさんのお絵本を見たいのと同じ絵本ばかり同じページばかり」と寂し気な保護者の声。愛され続けている絵本も参考に、そして心に響く絵本、自分に合う絵本を選ばれるといいですね。子どもは好きになった絵本やその場面を何度も見たいもの。これはとても大事な感受性、豊かな感性です。

数人相手の読み聞かせではできませんが、お子さんに絵本を読んであげる時、子どもが絵に集中している時は子どもに合わせましょう。絵を見るのが絵本です。子どもは絵を見て想像をふくらましています。「はやく、はやく」の日常の中、ゆったり穏や

かな絵本の空間に、せめて一時、どっぷりと浸りたいものです。絵本を介して認められ愛されていると実感することで、信頼関係や自尊感情も芽生えます。

幸せだけどやっぱり大変な子育て。次回から子育てのヒントを絵本で紹介していきます。



絵本は子どもがはじめて出会う文学であり、芸術でもあります

子育てひろっぱ「めぐみ」代表 弘田 恵子

大阪府立母子保健総合医療センター-NICUや母乳育児相談室で勤務。その後20年間高知市内のめぐみ保育園で園長を務める。助産師、看護師、保育士、幼稚園教諭(二種)。絵本専門士(国立青少年教育振興機構認定)。上級睡眠健康指導士